



カーグッズ・オブ・ザ・イヤーSPL

時代の先を行く
先進製品が生まれるまで

[インタビュー特集]

傑作プロデュースの 意義と意味



創刊以来の名物企画
「カーグッズ・オブ・ザ・イヤー」は
登場年を象徴するその年のカー用品の顔を定めるもの。

あまたある多種多様な用品のなかでも
ひときわ目を引く話題性に溢れた選出品は
過去を象徴するだけでなく、近未来のカー用品界をもうらなう。

いつ開発がスタートし、どのような過程を経て製品化を果たしたか。
そして、そこで得られた実績や反響とは何か？

傑作だからこそ、じっくり聞きたい、そことこ。
世に送り込んだキーマンに聞くそのバックストーリーを
3号連続展開の締めくくりとして、ここでじっくりお届けしよう。



制作者に聞く、名品リリースの舞台裏

※インタビュー取材にあたり、撮影中のみマスクを外してご対応頂きました

シェル・ルブリカンツ ジャパン株式会社
営業部 営業一課
マーケティングマネージャー
入江美沙 氏



「全ラインナップでカーボンニュートラル認証取得しているエンジンオイルをカー用品店に導入するのは我々が国内初となります」

長

らく昭和シエルのサービスステーションで販売されてきたシエル・ヒリックスは、発売開始から20年以上が経つロングセラー。ただ出光興産との合併により、その形態は変わらざるを得なくなりました。

それでも、シエルとしては依然として日本市場を重要視していることに変わりない。国内で研究から製造販売を維持するために新たな会社を設立し、大手カー用品量販店向けでも購入できるようなことは業界内でも大きな話題となった。

給油ついででのサービスの一環としてではなく、個別商品として魅力を持ちえられるよう、そのコンセプトはより明確になっている。パッケージにうたわれるカーボンニュートラル表記

はその一例だ。

「全ラインナップでカーボンニュートラル認証取得しているエンジンオイルの導入は、我々が国内で初めてになります。環境意識の高いお客様に対して、このオイルを使っていたことで貢献度を体感頂けるのではないかと思っています。SDGsに貢献する取り組みの一つですね」。

なぜ他にないのか。それは世界的な取り組みを通じてこそ可能になるためだ。

「シエルとしては他にもカーボンニュートラル認証取得している商品がありますので、それらと共に全世界で年間にこれだけの数量をカーボンニュートラル商品として販売しますというのを取りまとめ、発生するで

販路を変えてより明確となる 他にはないコンセプトと独自性

ある二酸化炭素の量を換算して、自然保護プロジェクトを通じてカーボンクレジットによって排出量をオフセットしています」。

もちろん、純粋な製品要素でも、他にはないアドバンテージがある。

「天然ガスからオイルを生成するというシェル独自の技術があります。もう三十年ぐらい前からの技術になりますね。大きな特徴としては、非常に精製度が高く不純物をほとんど含まないため、劣化しにくいですとか、添加剤の効能が非常に効きやすいといったメリットがあります。寒い所でも固まりにくいですし」。

添加剤を加えることで必要な性能を持たせるオイル生成の過程において、ピュアなベースオイルは何よりの高い素養と言える。劣化しづらく、エンジンをキレイに保ちやすい。

「原油から生成する場合でも、グレードの高いものになると精製度を高めることで、より不純物を除去した

ものが使われますが、それを限りなく不純物なくできてるといところですね。

いわゆる、ガス・トゥー・リキッドの技術であり、オイルに精通している方にはGTLという呼び方でなじみがあるかと思いますが、この商品ではメイド・フロム・ナチュラルガスという書き方をしています」。

日本市場では手薄とされてきた輸入車に対しても、その信頼感が高い。

「ウルトラシリーズは、BMWやVW、メルセデスベンツなど、各社の認証を取っています。ここまでの認証を得ているものは、国内で販売しているエンジンオイルとしては珍しいと思います」。

あわせて輸入車向けの専用用品ではないことにも注目したい。国産車にも当然使うことができ、そしてディーゼルのにも対応している。高い素養を活かした懐の深さも、他にはない独自のアドバンテージだ。



選出理由

入手先が広がる
唯一無二の
天然ガス基油

受賞製品メモ

オートボックスとイエローハットで購入可能になった、待望のシェルトップモデル。不純物の少なさでアドバンテージを持つ天然ガスを基にし、カーボンニュートラルを明記する高い先進性にも注目が集まる。